

# 2023年度 消防・防災訓練の報告

防火管理者 土屋 直道

10月15日(日)の消防・防災訓練は、朝から本降りの雨になったため、当初予定を大幅に縮小して実施されました。

当日午前8時に防災対策本部長以下11名が集まり協議し、以下のとおり決定しました。

- ① 居住者は、「地震発生」の放送後に、住戸内の安全な場所に避難する。その後、「避難確認カード」を玄関ドアに掲示する。
- ② 防災対策本部員は、集会棟に「災害対策本部」を開設する。
- ③ 各棟災害対策班は、エントランスに集合し、「棟災害対策本部」を掲示し、班員の役割を確認する。その後、各戸の「避難カード」をチェックし、「エレベーター使用禁止」を掲示する。
- ④ 各棟は、調べた結果をトランシーバーで本部に報告した後、報告シートを本部に持参し、本部は集計作業を行う。
- ⑤ 午前10時以降の「避難はしごの操作訓練」「避難訓練」その他予定した諸訓練はすべて中止する。

以上の決定により、地震対応の訓練のみが実施されることとなりました。

## ●2023年度(2023.10.15)

### 消防・防災訓練 避難確認カード掲示状況

棟	住戸数	参加戸数	避難確認カード	カード掲示率
A	139		83	59.7%
B	161		83	51.6%
C	132		65	49.2%
D	56		39	69.6%
E	247		136	55.1%
F	170		103	60.6%
G	56		37	66.1%
H	165		93	56.4%
I	216		109	50.5%
J	218		103	47.2%
K	56		41	73.2%
合計	1,616		892	55.2%

その結果、居住者の皆様に関しては、前掲①のうち、地震発生後に避難カードを掲示するという、掲示のタイミングを変更したことが影響したと思われ、左下の「避難確認カード掲示状況」による集計では、カード掲示率が全体で55.2%と、昨年(77.0%)に比べて大幅に低下しました。

前掲の②と③は、今回初めて「シーアイハイツ和光震災行動マニュアル(災害対策本部・棟災害対策班版)」に則り計画されたものだったが、概ね円滑に実行されました。担当役員の皆様のご尽力に感謝いたします。

今回の訓練で改めて感じたこと、それは「情報伝達の難しさ」でした。その事例が次の3件です。

① カードの掲示の変更については、月初、「消防訓練のお知らせ」や「管理組合たより」でお知らせしたうえ、当日の放送でも呼びかけましたが、十分ではなかったようです。

② 緊急ラジオについて、接続不良で訓練の変更が伝わらずに一次避難場所に集まった方がおられました。緊急ラジオは、重要な情報伝達ツールですので、電源アダプターとアンテナケーブルを接続し、電源・音量ダイヤルはオフにしておくことをお願いします。

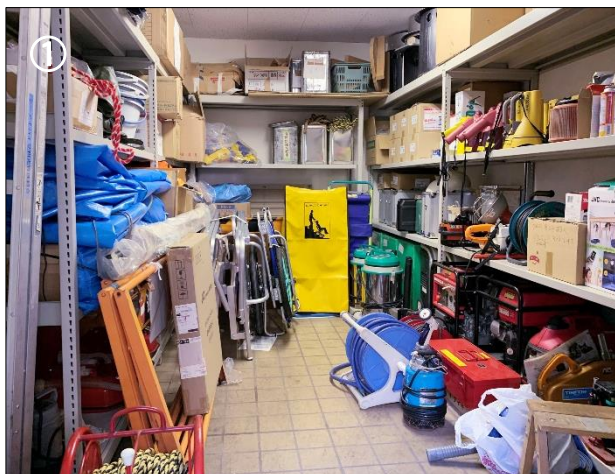
③ 災害対策本部と各棟災害対策班を繋ぐ手段として、トランシーバーを使っていますが、この交信訓練で、会話の聴き取りが難しかったほか、一部に機器の故障が見付かりました。

以上、今回は雨天のため、予定した多くの訓練が中止されました。しかし、災害は、時間や天候を選ばず「待った無し」で起こります。皆様、どうか日頃からの準備をお願いします。

おわりに、今回も準備段階から、管理センターのスタッフ、和光消防署、和光市役所他のご協力をいただき、深く感謝いたします。また、訓練に参加していただいた住民の皆様、担当役員の方々に御礼申し上げます。

# シーアイハイツ和光 消防・防災設備、備品

防災対策本部



- ① A棟防災倉庫内部の様子
- ② A棟防災倉庫入り口（A棟1階西端）
- ③ J棟防災倉庫入り口（J棟西側ゴミ集積場内）

## 備品の一部を紹介します。



- ④ AED：I棟東側エントランス内（写真）、および管理センターに設置。
- ⑤ 卓上コンロ用ガスボンベ発電機（エネポ）と投光器。エネポはA棟倉庫に2台、各棟に1台配置。
- ⑥ 緊急時階段避難車（右の写真は集会棟での使用例）。A棟倉庫に2台配備。重量があるので、必要な場所に搬入するには2人必要。階段の下降に便利。



- ⑦ 簡易担架（A棟倉庫に5台、各棟に1台配備）と、特殊救急袋（A棟倉庫に2袋備置）が人搬出時には4人が必要。
- ⑧ ポータブル蓄電池（A棟倉庫、管理センターに各1台配備）。
- ⑨ A棟倉庫内のハンドメガホン（サイレン付きや、大型メガホンはA棟倉庫内のみ）に備置）。各棟に1台配備。